

出土遺物

包含層または遺構から出土した遺物はかなり豊富で、陶磁器、土師器、備前焼、瓦、動物遺存体（骨・貝殻）、土製品、金属製品などがあります。18 世紀に帰属するものが大半であり、多くはゴミ穴とみられる土坑からまとまって出土しました。なかには飯事道具や玩具と考えられる土人形、土製品もあり、城下町における生活用品の豊富な資料を得ることができました。

まとめ

調査地点全体としては建物が1 基（図2：黒色網掛け）、井戸が4 基（図2：灰色網掛け）、柱穴とゴミ穴、土坑が複数確認できました。

当初検出が期待されていた、三之外曲輪から中堀にかけての石垣は、その可能性がある石材をトレンチ1 の北角のサブトレンチ下部でわずかに確認するにとどまり、石垣の検出には至りませんでした。

トレンチ1 における検出遺構の分布状況を見ると、特に柱穴が集中する箇所もあれば、逆に柱穴が全く確認できなかった箇所もあります。このような遺構の分布や出土遺物の種類から、侍屋敷と考えられる敷地においての建物の配置や、敷地内の利用状況を考えることができます。これらの建物配置や敷地内の土地利用状況は、当該期の屋敷区割りを示した、「岡山城下町絵図」と合致する部分もあり、近世の岡山城下町を考える上で参考となる成果といえます。



写真1 肥前系陶器皿



写真2 飾金具



写真3 土坑出土品



写真3 土坑出土瓦・鯨

岡山城三之外曲輪跡

調査期間：令和7年4月7日～5月26日
場所：岡山市北区天神町1丁目

岡山城三之外曲輪跡の概要

岡山城三之外曲輪は、岡山城本丸西側の外堀と中堀に囲まれた、岡山城城下町の最外郭にあたり、1600 年～ 1602 年のわずか2 年の治世の間に小早川秀秋が整備したものといわれています。絵図や古図によれば、三之外曲輪は北東部の津山往来に沿って町人地が設けられた以外は全て武家地で、侍屋敷が建ち並んでいたと推測できます。

調査地点は桃太郎大通りに面した駐車場であった区画で（図1）、三之外曲輪の北東部にあたります。南北にのびる中堀が天神山に向かって東に屈曲する地点付近です（図2）。

発掘調査の概要

今回の調査はマンション建設に伴うもので、調査対象地点は、マンション躯体（トレンチ1）と、エレベーター式駐車場（トレンチ2）の2ヶ所です。

調査は、まず重機を用いて現代造成土、戦災ガラなどを除去して包含層を検出しました。この際、調査区東側で細長い円礫を帯状に並べた方形区画と、その付近に広がる三和土（タタキ）を確認しました。その後は柱穴や土坑などの遺構を検出した上で人力掘削を行い、併せて図面作成および写真撮影等の作業を実施しました。

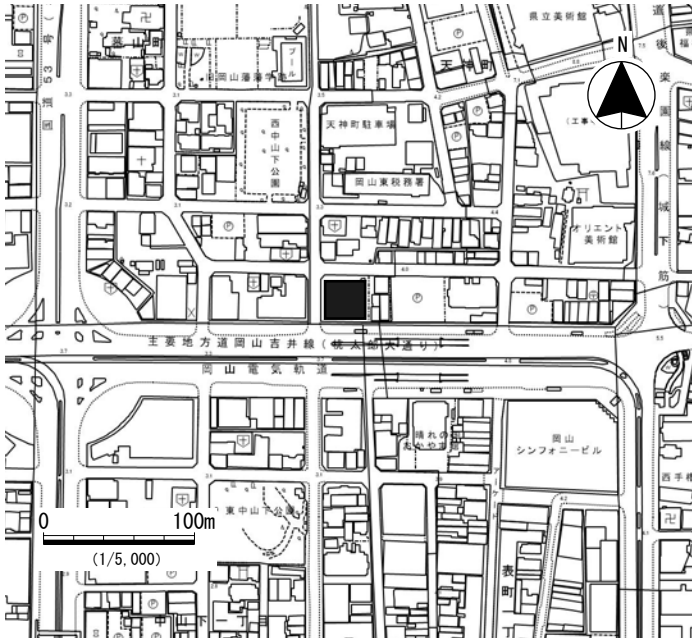


図1 調査地点の位置 (1/5,000)

発掘調査の成果（図3）

○トレンチ1

検出遺構には柱穴、土坑、井戸があり、柱穴は複数検出しました。直径約 20 ～ 30 cm のものが多く、内部に杭とみられる木材や礎石が残存する穴なども確認しました。組み合う柱穴は1 セットで、南北方向に長軸をもつ2 間× 3 間以上の建物の規模が想定されます。

土坑は円形、長円形、不整形のものがあり、直径が 3.5m を超えるものもありました。これらの土坑は、碗や皿などの陶磁器をはじめ多様な遺物が出土したため、ゴミ穴と考えられます。また、穴の中央に備前焼の甕を据えた埋め甕とみられるものも確認できました。

井戸は素掘りのものと石組みのものを確認しました。両者とも掘方は円形で、素掘りのものには細い丸太を四角く組み合わせた井戸枠が残るものと、竹材を用いた筒状の構造物が底に残るものとがあり、これらは廃絶後に埋められ、ゴミ穴として再利用されていまし

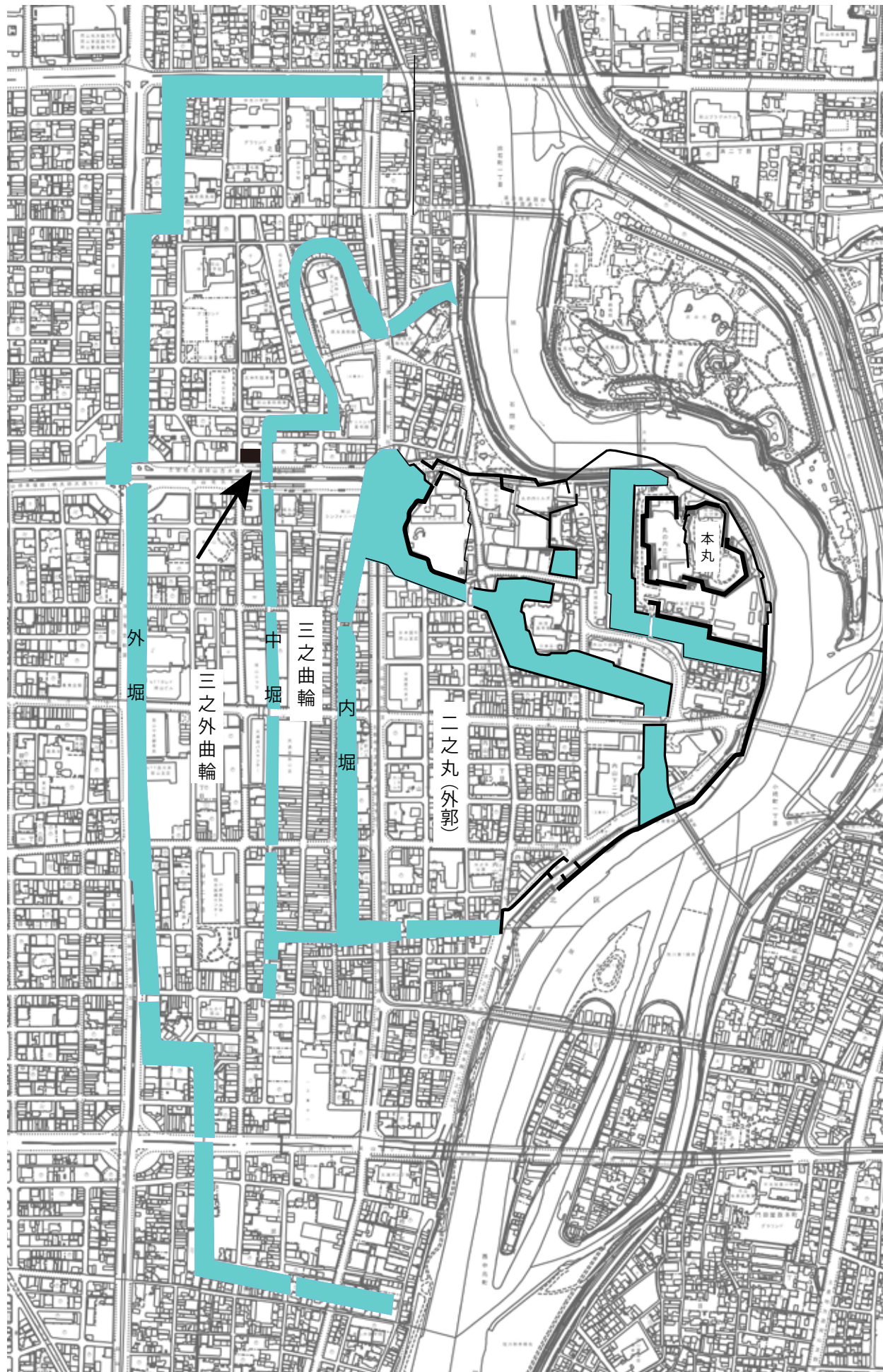


図2 岡山城城下町と調査地点の関係

た。石組みのものはこれら素掘りの井戸とは異なり、近現代まで使用されていたようで、井戸を半分に分けて内面を確認した際に、深さ約2.3m以上にわたり戦災ガラクタで埋まっていた。また、この井戸の石組みは、途中で石の組み方が変化することが観察により見て取れ、積み直しまたは積み替えを行い、長い期間井戸として使用されたと考えられます。

○トレンチ2

検出遺構には土坑、井戸があり、土坑は浅く広いものを数個確認しましたが、遺物は含まれていませんでした。

井戸は石組みのものを1基確認しました。掘方は方形で、木製車輪を転用したもので石組みを支えており、その下部には木製の井戸枠が据えられていました。木製の井戸枠は片面を焼いた長さ約1.7m、厚さ2cmの板材を24枚組み合わせ、竹製のタガを4条回し、樽状に留めたものです。

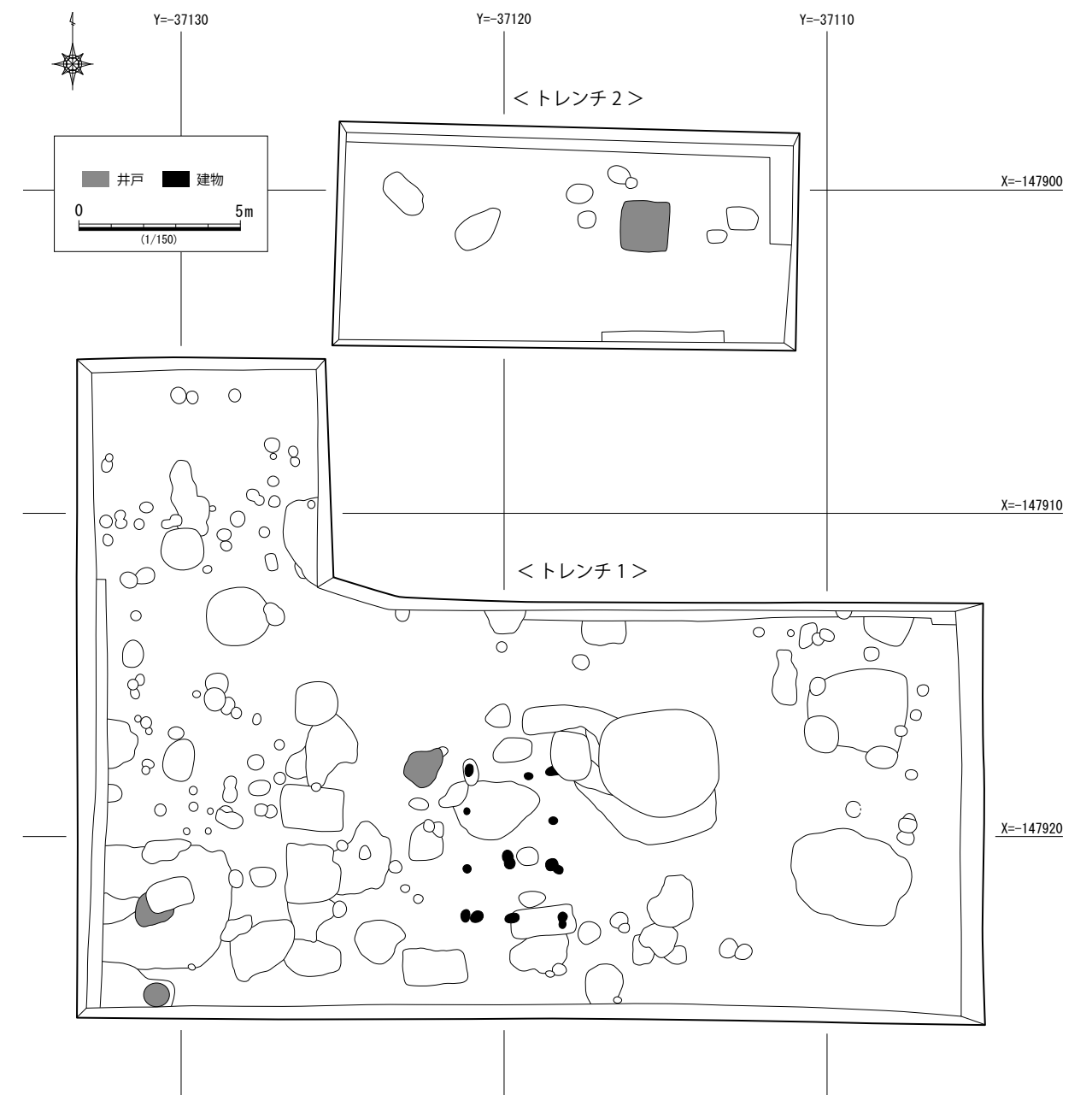


図3 調査区平面図 (1/200)